

西明寺地域

中世、門屋に城を築き約400年に渡りこの地域を治めていた戸沢氏。その伝統は「戸沢氏祭」や「戸沢さきまつ」として伝承されています。
現在では、そばや西明寺栗、木炭などの資源が豊富で、農業と観光資源を活かした町づくりが展開されています。



県内トップの農家民宿 グリーン・ツーリズム

この夏ごろから話題になることが多かった西木のグリーン・ツーリズム（以下GT）。全国的に見ても先進地と言われる西明寺のGTが人気上昇中です。

GTってなに？

農山漁村地域で自然や文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動です。

農家民宿ってどんな施設？

農作業や郷土料理づくりなどを体験できる宿泊施設で、西木町では平成8年に『泰山堂』が県内最初にオープン。平成10年



農家民宿を営むグリーン・ツーリズム西木研究会の皆さん

には『星雪館』、平成22年に『一の重』、『一助』、『くりの木』、『里の灯』、『のどか』が次々とオープンし、先進地として秋田県広報や多くの雑誌・新聞に活動が紹介されています。



笑顔がうれしい

『泰山堂』の藤井けい子さんは農家民宿の草分け、グリーン・ツーリズム西木研究会の会長も務めています。大変さもあるが、会員の皆さんは前向きで助けられていると話す藤井さん。

「お客さんが来てくれることを自分も含めて楽しんでいる。自分を大事に、お客さんも大事に。自分が楽しく、お客さんも楽しく」訪れた人が元気になる、そんな場所です。



『泰山堂』
藤井けい子さん



人と人のふれあい 特徴を活かして受け入れ

『のどか』は高橋由希子さんと祖母の佳子さんが営む農家民宿。農家である祖母を手伝いたいとの思いから2年前に由希子さんも加わり、現在では日本一若いオーナーとしてがんばっています。

お客さんと一緒にご飯を食べ、語り合うのが『のどか流』。「泊まってくれた人が友だちや知り合いを連れてまた来てくれる。交流も増えて客層も広がってさらに楽しくなった」と由希子さん。



写真左：『のどか』高橋由希子さん（左）と佳子さん（右）
写真下：「もち米を蒸したり赤飯を炊くときは甑（こしき）で」と佳子さん



写真左上：縄結び体験
写真右上：薪運び体験
写真下：きりたんぼを作っておしくいただきます



心の通う農村交流

20年くらい前から修学旅行生を受け入れて農業体験をしている「一の重」佐藤さん。昨年、農家民宿としてオープンしてすぐは無我夢中だったと言います。「今は少し振り返る余裕もできてきた。お客さんのもてなしについて、これで満足してもらえるのか考えている」と、よりよいサービスを考えながら、自分自身も成長していこうという前向きな気持ちが伝わってきます。

ます。

「ここはいいなあ」との言葉を聞いて「お父さんとまたがんばろうな、と話します」と改めて佐藤さん自身も地元よさを再確認している様子。

「近くにきたらよっていげな」と帰り際にかける言葉は、ひとつの出会いを大切に、また来てもらいたい気持ちが込められています。



『一の重』佐藤郁子さん



『一助』での農業体験



西明寺小学校のあいことば

『夢ドキ!くいっこ』

夢に向かって 感動を 郷土を愛そう

明治8年 玉林寺の寺子屋
西明寺小学校となる

郷土カルタでふるさと学習

現在、西明寺小学校(高橋智弘校長)全体で取り組んでいるのが郷土カルタ作りです。

地元になんだキーワード作りに子どもたちが取り組みました。当初は50音分がなかなか集まらず、父兄の皆さんにも手伝ってもらう事に。多くの人に携わってもらいながら、読み札が完成しました。

この取り組みに子どもたちは、「自分たちで作ったカルタ」という意識が高く、休み時間にはホールにおいてある「試作品」で楽しそうに遊んでいます。

読み札は書道の秩父先生とお弟子さんに、取り札の絵は広報の表紙絵を担当している鈴木一枝さんをお願いしています。小学校では「郷土カルタが完成したら、そのカルタに書かれている事柄を子どもたちが調べ、地元のことを深く知ってもらうために使っていく予定」だとか。

この郷土カルタは、11月8日、仙北市教育研究会の5年生の総合学習でいよいよ発表されます。



雷神社祭典梵天奉納

西荒井地区にある「雷神社」は厄除神、また落雷除神として信仰されてきた神社です。今年の8月14日に「梵天奉納」が15年振りに地域の皆さんの手で行われました。

「梵天の話は出ていたが、人手や準備の面など難しかった」とのことでしたが、「子どもたちに梵天を見せたい」と若い人たちの声もあり、地域で取り組むことに。また、伝統行事を行

うに当たり、地域運営体からホラ貝購入の補助をもらえたことも一つのきっかけと言えます。梵天作製にも、大人から子どもまで地域の皆さんが参加。祭典当日も朝早くから夜まで、みんなで協力し地域の家々を回りました。

15年ぶりの梵天は、地域の活気、コミュニケーションに大いに繋がりました。

地域が繋げる伝統 繋がりが生む活力



ほうれん草ピューレを使った試食会

「ほうれん草の値も下がりが農家数も減ってきた事で、新たな取り組みを考えていた。産業振興として地域運営体の協力もあり会を立ち上げた。しっかりと地元のものを使い、生産者の顔の見える商品を目指している。分量や保存の方法等課題は多いが、ほうれん草ピューレの試食会を通じて良い商品を作りたい」と語る阿部会長。



ピューレ試作品 阿部昭司会長

地元のもの食べてもらいたい、多くの人に味を知ってもらいたいと「オリーブの会」の熱心な活動は続きます。



澤山純二会長

大人から子どもへ地域の活力を知恵や文化を伝えていくために

西明寺地域運営体

地域運営体の活動を通じて、地域に活力を出していくためにがんばっていかねばならない。

最近はおじいちゃん、おばあちゃん、親から子へ、孫へ、地域の知恵を当たり前継承していきけるような、活力ある地域作りを進めていきたい。



小学校と地域運営体が連携し、小学校の一室を高齢者に解放。学校行事などに来校した際、控え所にするなど、世代間の交流を深める取り組みも進めています。

「歴史、風景、特産」地域を読んだ郷土カルタ



山 菜、野菜大集合
うめものいっぱい
むらびつ物産館



む らさきの
花のじゅうたん
かたくり群生地



お やかた様がねり歩く
歴史伝える
戸沢氏祭り